

くるくるファッションプロジェクト 事業報告書

株式会社BIG EYE COMPANY

2024年2月

くるくるファッションプロジェクト（株式会社BIG EYE COMPANY）



- 徳島県内における廃棄衣類削減を目指し、回収した古着を活用したリユースイベントの開催、リメイク商品の販売、マテリアルリサイクルを順に実施した。また県内におけるサステナブルファッションの普及啓発を目的とし、一般消費者に向けたツアーや行政向けの勉強会を併せて実施した。
- 次年度以降も、年に1回のペースで県内での広域回収と企業連携による再利用・再生事業を継続予定

事業の全体像

徳島県と上勝町より後援いただき、公共施設2拠点で対象衣類の広域回収し、回収した衣類は素材とアイテム別に仕分けを行った上で、各企業と連携しリユースイベントや勉強会の開催、商品開発、国内工場でのマテリアルリサイクル(再紡績・反毛化)、さらには徳島県内の各市町村へアンケートを送り、廃棄衣類の実態調査を行った。

取組の様子



上勝町ゼロ・ウェイストセンターでの回収の様子

12月24日開催
リユースイベントの様子

2月26日販売開始
リメイクシャツ商品

車内装材にマテリアルリサイクルされる衣類

取組の成果

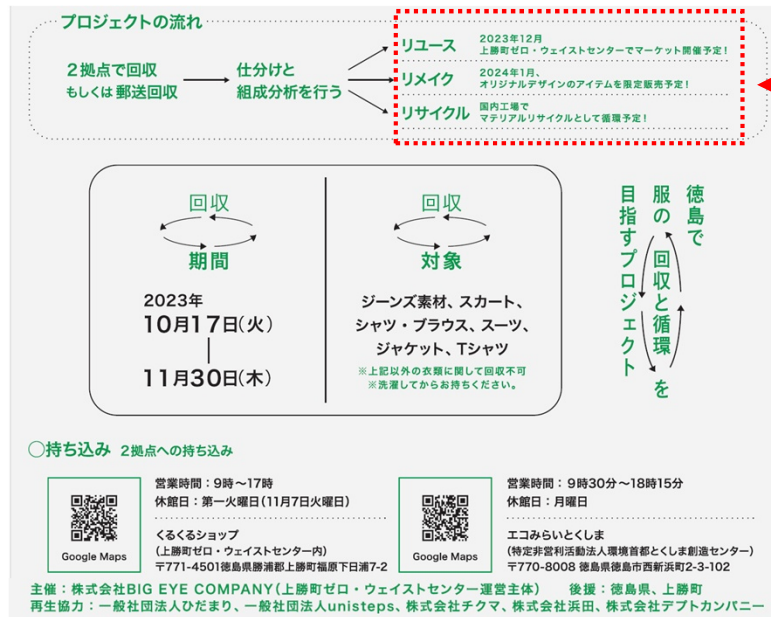
○広域回収量 1411.2kg → 再生量 1007.65kg
- リユース率 36%

リユース量 510.59kg (リユース506.79kg+リメイク6.74kg-ハギレ2.94kg)

- リサイクル率 35%

リサイクル量 497.06kg (再紡績23.6kg+反毛508kg-ロス34.54kg)

※在庫366.07kg分の衣類については、上勝町ゼロ・ウェイストセンターで保管しており、くるくるショップで無料リユースを継続する予定。在庫分がすべて持ち帰られた場合、リユース率は62%となる見込み。



【リユース】
一般社団法人
unistepsにご協力を
いただき12月24日
にイベントとスタデ
ィツアーを開催。

【リメイク】
回収した衣類を使用
したオリジナルシャ
ツを、株式会社デブ
カンパニーがデザ
イン監修、一般社団
法人ひだまりが縫製
し、2月に販売開始
。

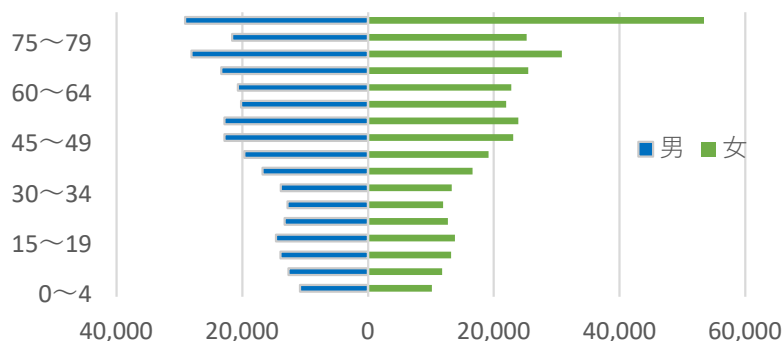
【リサイクル】
株式会社チクマと連
携し北九州工場にて
車の内装材に、株式
会社浜田と連携し大
阪工場にて回収した
綿100%の衣類を、
それぞれ2カ所での
リサイクル。

1. 対象地域の概要

徳島県全体

○694,841人（2023年10月1日時点）

○県内24自治体中14市町村が衣類の資源回収を行っている

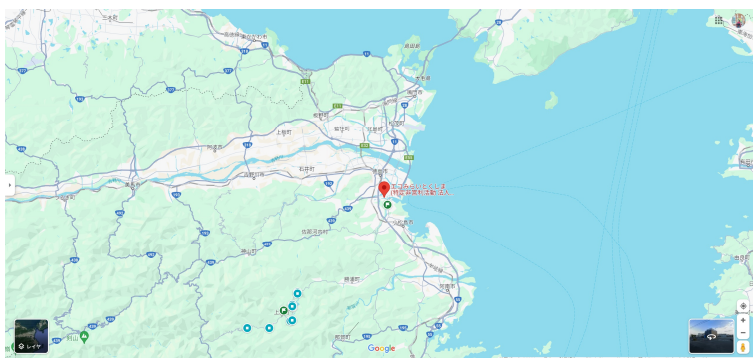


（出典）徳島県年齢別推計人口（令和5年10月）

回収地①

エコみらいとくしま（特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター）

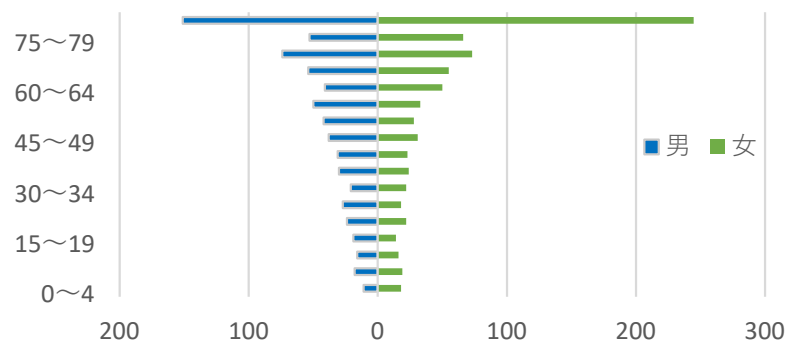
- 〒770-8008 徳島県徳島市西新浜町2-3-102
- 徳島県の環境学習・活動・啓発拠点



徳島県上勝町

○1,401人（2023年10月1日時点）

○繊維回収量 19,330kg/2022年

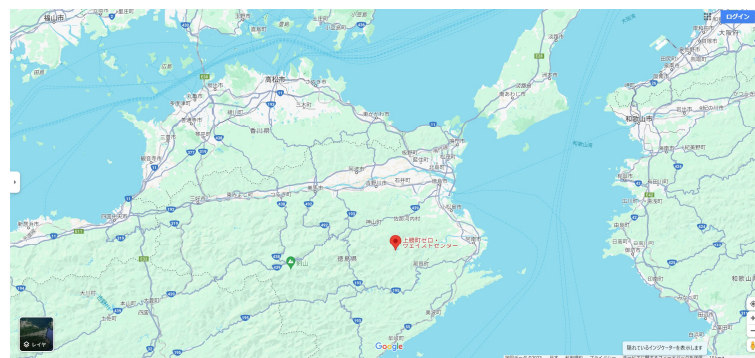


（出典）上勝町役場住民基本台帳（令和4年1月）

回収地②

上勝町ゼロ・ウェイストセンター内くるくるショップ

- 〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原下日浦7-2
- 上勝町の環境型公共複合施設



【上勝町のリユース施策】町内唯一の廃棄物中間処理施設である「ゴミステーション」に併設した「くるくるショップ」にて再利用可能な不用品を住民から回収し、誰でも無償で持ち帰ることができる仕組みを2005年より導入。衣類含めて年約4トン品物が持ち帰えられている実績がある。

2. 事業の目的

小規模自治体である徳島県上勝町単独では解決できない「より高度な再資源化ルート」の発掘」と「十分な資源回収量の確保」という課題に対し、徳島県内で廃棄衣類の課題を抱えている自治体とともに使用済み衣類の広域回収スキームの構築と再生率向上を目指す。

①なぜ高度な再資源化ルートの発掘が必要なのか？

→徳島県内では自治体ごとに廃棄衣類の処分方法はばらつきがあり、資源化のルートを確認できずに焼却処分をしている自治体もある。現状として、県内の24市町村中10市町村は、使用済み衣類の焼却処分を行っており、回収を行うことで廃棄にかかる環境負荷や処理コストの削減につながるのか実証を行う。

②なぜ十分な資源回収量の確保が必要なのか？

→再資源化には「一定の回収量」と「素材ごとの細かな分別」が求められるが、小さな自治体では回収量が不安定・少量である上、コストと選別の手間がかかり、負担が大きい。広域で回収を行うことによる再生可能な衣類資源量が確保できるのか確認すると同時に、分別方法の整理を行う。

本事業への参画を通じて、県内全域で使用済み衣類回収の呼びかけを行うと同時に、イベント・勉強会の開催に伴い、廃棄衣類削減と再生を徳島で取り組む機運づくりとする。

3-1. 事業の内容

本事業では、再資源化技術が確立されている衣類を対象とし、一定期間中に使用済み衣類の回収及び組成分析（①）を行ったうえで、リユース（②）、リメイク（③）、リサイクル（④）の順に再生に取り組み、廃棄衣類削減に取り組んだ。

回収・再生を行う中で、一般消費者向けのワークショップやスタディツアーを開催することによって、「サステナブルファッション」普及啓発の機会を創出すると同時に、行政職員向けのアンケートや勉強会（⑤）を実施し広域回収スキーム構築に向けた現状の課題整理を行った。

① 使用済み衣類の広域回収の実施及び組成分析

- 内容：対象衣類の回収呼びかけ、組成分析
- 期間：2023年10月17日(火)～11月30日(木)回収、12月分析
- 場所：上勝町ゼロ・ウェイストセンター、エコみらいとくしま（特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター）
- 協力：徳島県庁（回収ボックス設置協力）、上勝町役場（回収ボックス設置・組成分析協力）、株式会社もくさん（回収ボックス制作）、KUMA（回収呼びかけ用のチラシデザイン制作）
- 効果検証：対象衣類の回収量・素材ごとの含有率の算出

衣類回収呼びかけ用チラシ（発注先：KUMA）

KURUKURU

Fashion Project



徳島で
服の回収と循環を
目指すプロジェクト

くるくるファッションプロジェクト KURU KURU FASHION PROJECT

回収期間 2023年10月17日(火)～11月30日(木)

対象 ジーンズ素材、シャツ・ブラウス、ジャケット、スーツ、Tシャツ、スカート ※左記以外の衣類に関して回収不可 ※洗濯してからお持ちください。

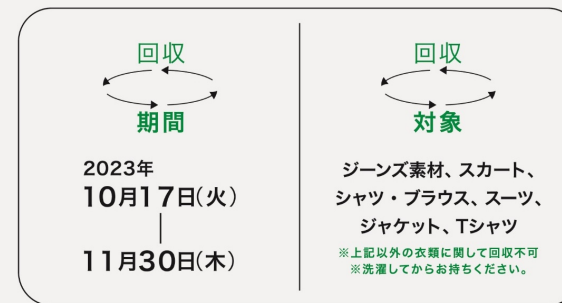
主催：株式会社BIG EYE COMPANY(上勝町ゼロ・ウェストセンター運営主体) 後援：徳島県、上勝町
再生協力：一般社団法人ひだまり、一般社団法人unisteps、株式会社チクマ、株式会社浜田、株式会社デフトカンパニー

BIG EYE WHY

くるくるファッションプロジェクト KURU KURU FASHION PROJECT

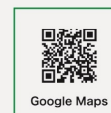
KURU KURU Fashion Projectは、上勝町ゼロ・ウェストセンターを筆頭に2023年よりスタートした徳島県内で服の循環(くるくる)を目指すプロジェクト。国内の家庭から廃棄される衣類なんと約46万トン*！そのうち95%は焼却・埋め立て処分されています。当たり前に捨てている服を、県一体となって楽しくまわす仕組みづくりに取り組み、廃棄衣類の削減に挑戦します。*環境省『サステナブルファッション』より引用

プロジェクトの流れ



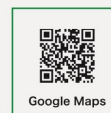
徳島で
服の回収と循環を
目指すプロジェクト

〇持ち込み 2拠点への持ち込み



営業時間：9時～17時
休館日：第一火曜日(11月7日火曜日)

くるくるショップ
(上勝町ゼロ・ウェストセンター内)
〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原下日浦7-2



営業時間：9時30分～18時15分
休館日：月曜日

エコみらいとくしま
(特定非営利活動法人環境首都とくしま創造センター)
〒770-8008 徳島県徳島市西新浜町2-3-102

〇郵送

(宛名：上勝町ゼロ・ウェストセンター内くるくるショップ
住所：〒771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原下日浦7-2)

FAQ(よくある質問)：

- Q：回収拠点に郵送してもよいですか？ → A：発払いで上勝町ゼロ・ウェストセンター宛にお送りください。
- Q：持ち込みの限度量はありますか？ → A：ありません。
- Q：費用は発生しますか？ → A：発生しません。
- Q：穴や破れがあるものも回収できますか？ → A：回収可能です。
- Q：シミがついていても回収できますか？ → A：軽いシミであれば回収可能です。
- Q：付属品(ボタン・ファスナー)は外したほうがいいですか？ → A：取り外す必要はありません。
- Q：回収できないものはありますか？ → A：以下のものは回収できません。
- 肌着類、着物、下着類、ユニフォーム、靴下、学生服、水着、帽子、布団、
ベルト、シーツ、合成皮革、マット、タオル、革製品、ダウン、体操着、フリース

お問い合わせ 株式会社BIG EYE COMPANY info@why-kamikatsu.jp

主催：株式会社BIG EYE COMPANY(上勝町ゼロ・ウェストセンター運営主体) 後援：徳島県、上勝町
再生協力：一般社団法人ひだまり、一般社団法人unisteps、株式会社チクマ、株式会社浜田、株式会社デフトカンパニー

<https://why-kamikatsu.jp/>



【チラシの配布先】

メール：エシカル消費自主宣言事業者、県内市町村消費者行政担当課、市町村廃棄物担当者

X(旧ツイッター)：とくしまエシカル消費普及推進プロジェクト

郵送：徳島県内各校エシカルクラブ

など

上勝町ゼロ・ウェイストセンター(WHY)が廃棄衣類を減らすプロジェクト「くるくるファッション」を環境省支援により開始！

徳島県で服の広域回収と循環にチャレンジ

株式会社BIG EYE COMPANY
2023年10月16日 14時30分

上勝町ゼロ・ウェイストセンター(WHY)を運営する株式会社BIG EYE COMPANY（所在地：徳島県上勝町、代表取締役：田中 達也）は、徳島県内における廃棄衣類削減と循環を目指し、徳島県による「令和5年度使用済み衣類回収スキームの構築に向けたモデル実証事業」の採択を受けて「KURU KURU Fashion Project（くるくるファッションプロジェクト）」を開始します。



徳島で
服の
入
回収と
循環
を
目指す
プロジェクト

本プロジェクトでは、上勝町ゼロ・ウェイストセンターを中心に、徳島県内2拠点で服の広域回収を10月17日（火）～11月30日（木）まで行います。回収した服は組成分析を行い、パートナー企業の協力によりリユース・リメイク・リサイクルの流れで再生します。

パートナー企業として、リメイクには株式会社デブトカンパニー、一般社団法人ひだまり、リサイクルには株式会社チクマ、株式会社浜田、そしてイベントや勉強会の運営として一般社団法人unistepsにご協力いただきます。

今後、12月24日（日）には上勝町ゼロ・ウェイストセンターで一般参加可能なリユースイベントの開催、1月にはリメイクした服の販売や、行政職員向けの勉強会の開催を検討しており、本プロジェクトを通じて「循環型ファッション」の普及啓発の機会を創出していきます。

国内で初めてゼロ・ウェイスト宣言を発表した上勝町にて、廃棄物の分別と再利用・再資源化についてのこれまでの知見や経験を活かし、徳島県内における廃棄衣類の削減に向けた取り組みの波及を目指します！

・プロジェクト概要

プロジェクト名
KURU KURU Fashion Project（くるくるファッションプロジェクト）

実証期間

株式会社BIG EYE COMPANY

フォロー フォローするとうるな?

0 フォロワー

URL -

業種 サービス業

本社所在地 徳島県徳島市上勝町福原下日浦7-2

電話番号 -

代表者名 田中達也

上場 未上場

資本金 -

設立 -



検索

キーワードで検索

2024年2月29日(木)まで
※衣類の広域回収期間：10月17日(火)～11月30日(木)

衣類回収拠点

上勝町ゼロ・ウェイストセンター内くるくるショップ

住所：〒771-4501 徳島県徳島市上勝町福原下日浦7番地2

時間：9時00分～17時00分

休館日：第1火曜日（11月7日）

エコみらいとくしま（特定非営利活動法人環境部とくしま創造センター）

住所：〒770-8008 徳島県徳島市西新浜町2丁目3-1 02

時間：9時30分～18時15分

休館日：毎週月曜日

回収対象衣類

ジーンズ素材

シャツ・ブラウス

ジャケット

スーツ

Tシャツ

スカート

目的

徳島県内における廃棄衣類の削減、及びサーキュラーファッションの普及啓発

・本プロジェクトにおける衣類の再生方法について

回収した衣類は組成分析し、リユース・リメイク・リサイクルの順で循環を行います。

①リユース

12月24日（日）に一般参加者を対象にゼロ・ウェイストセンター主催のリユースイベントを開催予定です。回収した衣類の再利用に加え、服のリペアに関する出店者をお招きしたマルシェ企画を検討しています。イベントに合わせ、一般社団法人unisteps主催のサステナブルファッションのスタディツアーやトークイベントも開催します。

②リメイク

1月に株式会社デブトカンパニーによるデザイン監修、及び一般社団法人ひだまりの製作協力により、回収した衣類のリメイク品を販売予定です（販売に関しては12月頃に情報発信を行う予定）。

③リサイクル

リユースやリメイクが難しい衣類については、株式会社チクマ（チクマノループ®）の協力により北九州工場までマテリアルリサイクルを行います。また、株式会社浜田の協力により、回収したコットン100%製品についてはリサイクルコットンへと再生する予定です。リサイクル過程については、勉強会等で随時発信を行っていきます。

・参加企業・団体と各役割

主催

・株式会社 BIG EYE COMPANY（統括、企画、回収ボックス設置、衣類のリユース、リメイク品の販売）<https://why-kamikatsu.jp/>

パートナー

- ・一般社団法人ひだまり（衣類のリメイク制作）<https://hida-mari.com/kurukuru-factory/>
- ・一般社団法人unisteps（サステナブルファッションに関するレクチャーの開催）<https://unisteps.or.jp/>
- ・株式会社チクマ（衣類の組成分析、衣類のマテリアルリサイクル）<https://chikuma-no-loop.com/>
- ・株式会社デブトカンパニー（衣類のリメイク監修）<https://d-e-p-t.tokyo/>
- ・株式会社浜田（衣類の組成分析、衣類のマテリアルリサイクル）<https://www.kkhamada.com/>

後援

- ・上勝町役場（衣類の回収、実証支援）
- ・徳島県（回収ボックスの設置、実証支援）

プレスリリース記事 （2023/10/16掲載、 発注先：PR TIMES）

・徳島県上勝町のゼロ・ウェイストについて



上勝町は2003年に国内ではじめて「ゼロ・ウェイスト（ごみゼロ）宣言」を発表して以来、住民一体となって廃棄物の発生抑制、焼却・埋め立てごみの削減に取り組んでいます。その結果、年間を通じて捨てられたゴミのうち約4トンをリユースし、リサイクル率は約8割を達成しています。現在、町では2030年に向けて「第二期ゼロ・ウェイストタウン計画」を策定し、循環型社会の実現に向けた企業連携の取り組みを推進しています。

上勝町ゼロ・ウェイストセンター(WHY)は、2020年に上勝町に公共複合施設としてオープンした活動のハブとなる拠点です。施設内には、上勝町の廃棄物中間処理施設である「ゴミステーション」に加え、リユース拠点の「くるくるショップ」、コミュニティスペースの「交流ホール」、コワーキングスペースの「ラボラトリー」そして、ゼロ・ウェイストアクションをコンセプトに掲げた宿泊体験施設「HOTEL WHY」が設置されています。町民だけでなく、宿泊者や観客など、年間を通じて町の人口以上にゲストの受け入れを行い、ごみを通じたコミュニケーションやコラボレーションが育まれています。

今回の実証事業は、上勝のような小規模自治体では解決できない「十分な資源回収確保の確保」という課題に対して、特に県内で課題を抱えている廃棄衣類の回収を行い、再利用化と再資源化に向けた広域での連携体制の構築を目指します。

● このプレスリリースには、メディア関係者向けの情報があります。

メディアユーザー新規登録
無料

メディアユーザーログイン
既に登録済みの方はこちら

メディアユーザー登録を行うと、企業担当者の連絡先や、イベント・記者会見の情報など様々な特記情報を閲覧できます。
※内容はプレスリリースにより異なります。

プレスリリース > 株式会社BIG EYE COMPANY > 上勝町ゼロ・ウェイストセンター(WHY)が廃棄衣類を減らすプロジェクト「くるくるファッション」を環境省支援により開始！

種類	イベント
ビジネスカテゴリ	環境・エコ・リサイクル レディースファッション
位置情報	徳島県上勝町（チーム本拠地）
キーワード	徳島県 WHY 上勝町 ゼロ・ウェイスト くるくるファッション 衣類回収 資源循環 サークュラーエコノミー
関連URL	https://why-kamikatsu.jp/

このプレスリリースをシェアする



衣類回収を呼び掛けた取材記事（徳島新聞2023/11/10掲載）

2023年(令和5年)11月10日 金曜日 第3種郵便物認可

上勝町ゼロ・ウェイストセンター 循環利用促進 不要な服回収

上勝町福原の町ゼロ・ウェイストセンターを指定管理する同町のビッグアイカンパニーは、不要になった衣類を広く回収して循環利用する取り組み「くるくるファッションプロジェクト」を始めた。今月末まで県内2カ所に回収ボックスを設け、再利用に役立てる。サステナブル持続可能なファッションを考へてもらうイベントや、自治体職員向けの勉強会なども開く。

10月からセンター内の不要品交換所・くるくるショップと、徳島市西新浜町のエコみらいとくしまの入り口に回収ボックスを設置。洗濯したシャツやブラウス、Tシャツ、スカート、ジャケット、スウェット、デニム生地の衣類を持ち込める。センターへの郵送も受け付けている。破れや染みが少しあるものも回収可能。下着類や水着、革製品、ユニホームなどは受け付けない。

回収した衣類は、素材などを確かめてからリユース、リメイク、リサイクルする。センター近くの「くるくる工房」を運営するひだまりをはじめ、服の再生やサステナブルファッションの普及啓発などに取り組むunisteps（ユニステップス）、デフトカンパニー（以上東京）、チクマ、浜田（以上大阪府）が協力する。

月末まで県内2カ所に「ボックス」

不要になった衣類の回収ボックスを呼び寄せる大塚さん。気軽に持ってきてくださいと呼び掛ける上勝町福原の町ゼロ・ウェイストセンター



サステナブルファッション 衣服の生産から着用、廃棄に至る過程で、将来にわたり持続可能であることを目指し、生態系を含む地球環境や関わる人・社会に配慮した取り組み。環境省によると、国内の家庭から手放される衣服は年間約70万トン。うち約46万トンが廃棄され、95%が焼却・埋め立て処分されている。▽服のリペアやリユースを利用しやすくする▽安く買って流行が終われば処分するサイクルを見直す▽生産工程で環境問題にどう配慮しているかといった情報を分かりやすくする一などの取り組みが求められている。

来月24日 修繕ワークショップ

12月24日には、センターを会場に、服の修繕を体験するワークショップやマルシェを予定。来年1月には、リメイクした衣服の販売や、自治体職員向けのサステナブルファッションの勉強会を行う。

プロジェクトは、5～6月に環境省が公募した本年度の「使用済み衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」に採択されて実施。来年度以降も続ける考えだ。

センターを運営する大塚桃菜さん（26）は「今後は服を当たり前のように捨てる環境を直し、再生ルートを確立する必要がある。衣替えシーズンで衣類を捨てる服などがあるればぜひ持ち込んでいただき、再生に協力をお願いしたい」と呼び掛けている。

（板野睦）

機に始まった。平石公寛社長が同市を機渡し、20年に友好都市提携に向けた意向書を交わし、23年3月に提携を結んだ。

この日の説明会には、組合への加入を検討している企業1社の約20人が参加。組合の代表取締役社長らが設立趣旨や技能実習制度、特定技能制度について説明した。平石社長は「パンケラデシユは世界一の人材輸

パンケラデシユ・ナラヤ 会社などの7社で4月に設

ンカンシ市と友好都市提携 立。11月時点で9社が加入

を結んだ同市の企業などしている。且つ、同市の

パンケラデシユ 実習生受け入れ

監理団体を設立

友好都市提携受け 鳴門などの企業

徳島新聞への取材は計4回：

衣類回収スタート中×2回、組成分析中×1回・12月24日リユースイベント前×1回、イベント後×1回

製作した回収ボックス（発注先：株式会社もくさん）



県産材を活用した、分解できるデザインで制作を行う

各拠点での回収ボックス設置の様子

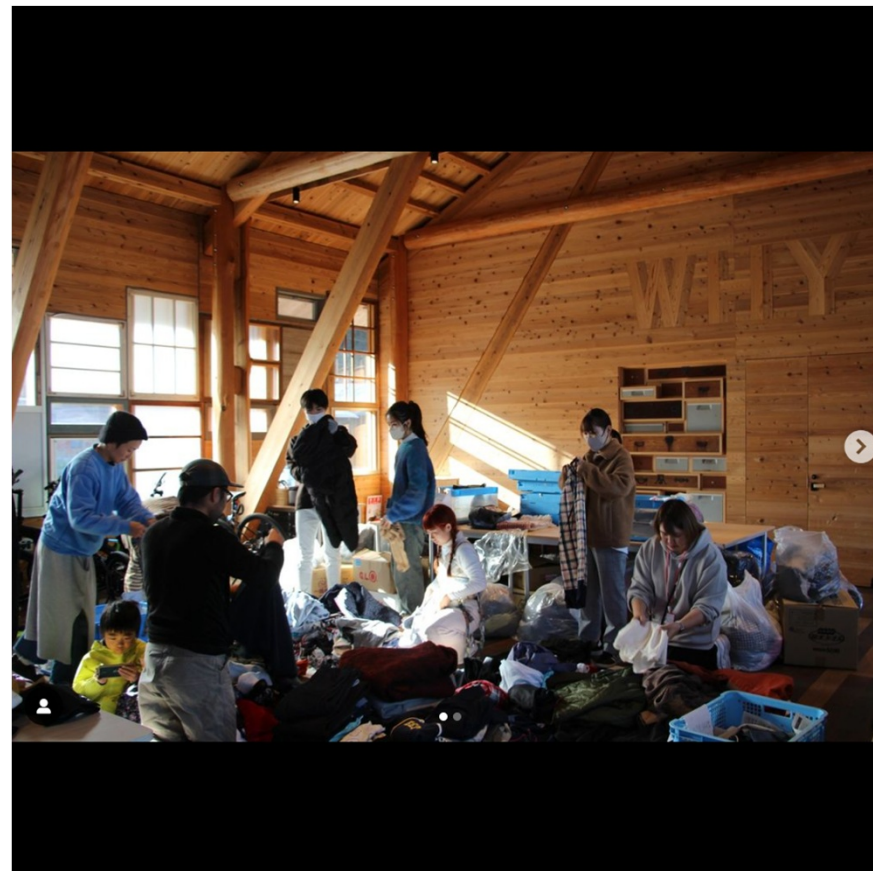


エコみらいとくしま（徳島市）



ゼロ・ウェイストセンター（上勝町）

上勝町ゼロ・ウェイストセンターでの組成分析の様子



3-2. 事業の内容

② リユースイベント「KURU KURU Fashion Market」の開催

- 内容：回収した衣類の二次流通（無料）、一般消費者向けに衣類のリユースを促進するワークショップや衣類の分別体験、トーク、イベントに合わせた1泊2日のスタディツアーの開催
- 期間：2023年12月24日(日)11時～16時
- 場所：上勝町ゼロ・ウェイストセンターWHY
- 協力：一般社団法人unisteps（ツアー・勉強会開催）、エコみらいとくしま（学生ボランティアの派遣・徳島県環境講座開催）、6事業者の参加有（商品販売・ワークショップの提供）
- 効果検証：回収量に対するリユース率の算出、参加者アンケートの実施

③ リメイク品の作成・販売

- 内容：服のリメイクデザイン作成、制作、ポップアップ販売
- 期間：2023年11月デザイン制作、12月制作、2024年2月26日オンライン販売開始
- 場所：インターネットショップ「Square」
- 協力：株式会社デプトカンパニー（デザイン制作）、一般社団法人ひだまり（縫製）
- 効果検証：リメイクアイテム制作に伴うリユース数の算出、販売実績

2023.12.24 SUN 11:00-16:00 at Kamikatsu Zero Waste Center WHY
ゼロ・ウェイストタウン上勝で開催される古着のリユースマーケット

NPO法人環境首都とくしま創造センター（エコみらいとくしま）後援により サステナブルファッションのトークや衣類の分別ワークショップを開催

今年のイブはお洋服さんたちとクリエイティブに！

KURU KURU Fashion Market

エコみらいとくしまが
KURU KURU FashionMarket の
特別企画にバスツアーするんだって！！

Let's! GO!

県内新聞の掲載記事（11月10日付）に大反響！！ 環境省の「使用済み衣類回収のシステム構築に関するモデル実証事業」に採択された「くるくるファッションプロジェクト」。上勝のゼロ・ウェストセンター内のくるくるショップとエコみらいとくしまの2カ所に設置した衣類回収ボックス。エコみらいとくしまにも通日、お問合せのお電話や県民の方々からの衣類の持ち込みがございました！ 関心の高さに驚く毎日！！

ワークショップ：「ごみの学校」による「服の分解体験」衣類のリサイクルについて、廃棄物のプロと一緒に実際に服を分解しながら学んでみよう

トークイベント：このプロジェクトに携えている大塚純奈さんとエシカルファッションプランナー鎌田安里紗さんによるサステナブルファッショントーク！ 2023年11月に皆さんの手元から立ち「くるくるファッションプロジェクト」に参加したお洋服さんたちのおしゃべりが始まります。さあ！どんなお話が飛び出するか？！ワクワクドキドキが止まらない！！

日 時	12月24日（日）9:30-16:30 （移動時間を含みます）
場 所	エコみらいとくしま 集合・解散
イベント会場	上勝町ゼロ・ウェストセンター WHY 勝浦郡上勝町榎原下日浦 7-2
対 象	小学生以上～、一般（小学生は保護者同伴）
定 員	10名（要申込・先着順）
参加費	無料
申 込	NPO 法人環境首都とくしま創造センター
問合先	【エコみらいとくしま】 ※申込書は裏面をご覧ください

タイムテーブル

9:30—【出発】エコみらいとくしま
10:30—【到着】いっきゅう茶屋休憩後、上勝町ゼロ・ウェストセンター WHYへ
11:00—ワークショップ
12:00—ゆっくりお昼休み（昼食は各自準備ください）
14:15—トークイベント
15:30—【出発】上勝町ゼロ・ウェストセンター WHY
16:30—【到着】エコみらいとくしま

※年末のため渋滞等の影響で予定より帰着時間等が遅れる可能性があります。その点、ご了承ください。

イベントのご紹介

KURU KURU Fashion Market 開催時間 / 11:00 ~ 16:00

ワークショップ	— KEETO workshop（杉の糸や布を使ったワークショップ） — JOCKRIC RECLAIM（シルクスクリーンワークショップ） — UNWdesign（さき織ワークショップ） — Awa Blues Connexion InBetweenBlues × アワガミファクトリー × 城西高等学校阿波藍専攻班 × 吉田一郎（阿波藍、阿波和紙、木材のハギレを使ったアート作品のワークショップ）	販売	— assobimotte（はちみつ） — AJI CIRCULAR PARK（端材とアップサイクル商品） — 川村通商株式会社（分解可能な靴） — DEPT（オリジナルメイクアイテムのお披露目）
----------------	---	-----------	---

主催者さんからのメッセージ：ゼロ・ウェストセンター内にある無料リユースショップ「くるくるショップ」では、クリスマス翌日の古着マーケットを開催します。選んだ古着は、シルクスクリーンや上勝の杉から生まれた糸を使い、そこで自分らしくリデザイン！はかにも、「ゼロ・ウェスト（ごみの発生を抑制し、循環を取り入れたデザイン）」をキーワードに集めたアイテムの販売も！とっておきの一瞥を見つけて、カスタムして、服を着ていくくるファッションをたのしもう！

KURU KURU Fashion Market
イベントに関するお問い合わせ先
主催：株式会社 BIG EYE COMPANY Info@why-kamikatsu.jp

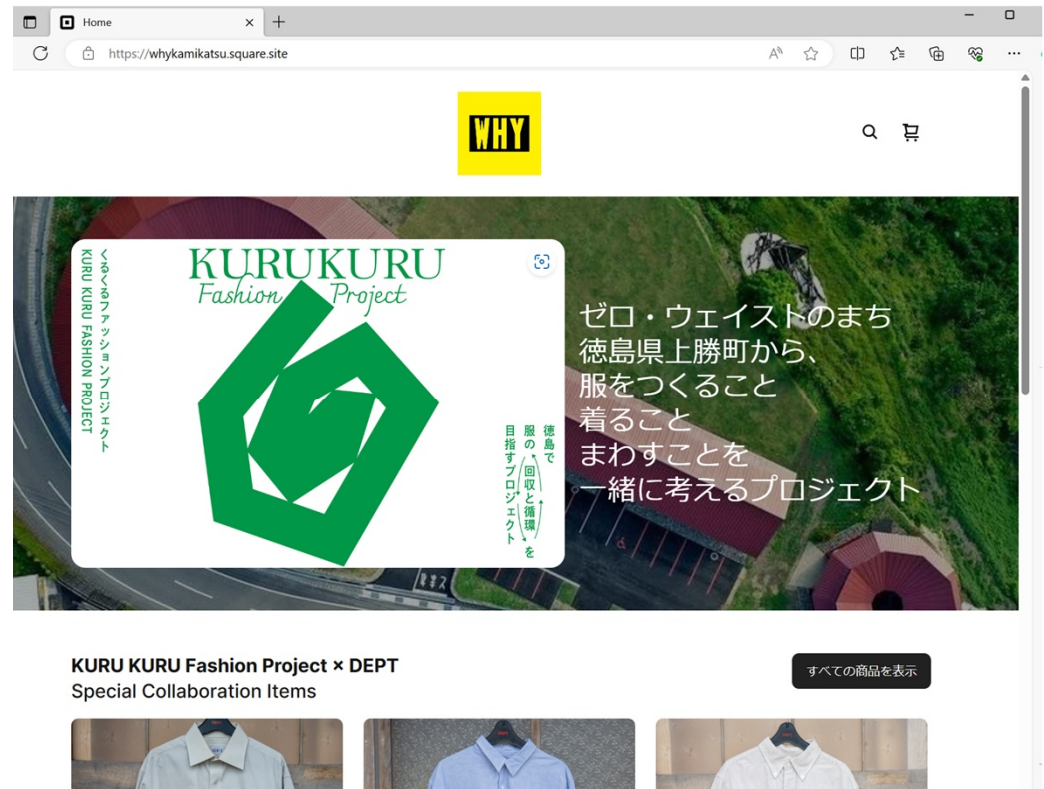


左：一般社団法人unistepsがリユースイベントの開催に合わせて実施した1泊2日のスタディツアーの様子

右：イベントやツアーの様子は徳島新聞を含む3媒体にて取り上げられた



左：リメイクシャツのPRデザイン
右：販売用ウェブサイト



株式会社デプトカンパニーによるリメイクシャツの仕様書（一部抜粋）

①シャツを3枚選ぶ。A：メイン B：マチ/右身頃 C：マチ/左身頃



B：マチ/右身頃

A：メイン

C：マチ/左身頃

▶選び方のポイント

- ・Aのシャツは長袖／Yシャツ型／前がボタン開きのもの／大きめサイズが望ましい。
- ・BとCはカットして縫い合わせてマチパーツにするので、半袖、ノースリーブでもOK
- ・ポリエステル系のテロテロとしたレディースのブラウスは向いていません。
- ・A,B,Cは素材感や生地の厚み、かたさが近いものだと縫製しやすいです。
- ・同じ柄同士（ストライプ系、チェック系 etc）で組み合わせるとバランスよくみえます。
- ・白っぽいYシャツは、襟元や袖口の黄ばみや汚れているものが多いのでそういったものは後染め加工したほうが良いと思います。

チェック柄でまとめたもの



ストライプ／Yシャツ系の素材でまとめたもの



ポリエステルのテロテロとしたブラウスは
シャツ生地と縫い合わせにくい、染色できないので
今回の企画には向いていません。



ブラウスでもコットン系の素材であれば
B,Cのマチ用素材として使用可能です。



サンプル画像 お送りいただいた回収古着で3点、サンプル作成しました。シャツの組み合わせはeriがセレクト。



後染めサンプル 市販のECO染料を使用し、熱湯で約1時間付け染めました。
コットン100%だと綺麗な黒に染まります。コットンにポリエステルが混ざっているものは
コットンの部分だけ染まるのでグレーっぽい色合いに染まります。



チェック柄のシャツ／ブラウスを組み合わせたもの



異なる色／素材を組み合わせたもの

※色のバランスが難しいのでこういったものは後染めのほうが良いかもしれません。

3-3. 事業の内容

④2種類のマテリアルリサイクルの実施

- 内容：コットン100%製品のアイテムは再紡績を、それ以外の対象アイテムは反毛化を行う
- 期間：2024年1月～2月
- 場所：【再紡績】大阪・新内外綿株式会社様、【反毛】福岡・株式会社エヌ・シー・エス様
- 協力：株式会社浜田（再紡績）、株式会社チクマ（反毛）
- 効果検証：回収量に対するリサイクル率・処理コストの算出

⑤行政職員向けアンケート・勉強会の実施

- 内容：徳島県内各自治体への廃棄衣類に関する調査、勉強会の運営
- 期間：2023年12月11日～19日アンケート、2024年2月26日(月)オンライン勉強会開催
- 場所：徳島県
- 協力：一般社団法人unisteps（勉強会）
- 効果検証：各自治体へ事前アンケートの回答率、勉強会への参加率

マテリアルリサイクル工場への郵送の様子
(配送には町内で調達した使用済み段ボールを使用)



株式会社チクマより配布されたりサイクル禁忌品リスト

回収できるもの

ジーンズ素材	○
シャツ／ブラウス	○
ジャケット	○
スーツ	○
Tシャツ	○
スカート	○
衣料品の穴あき	○
破れ	○
軽いシミ	○

※衣料品の付属品(ボタン・ファスナー)は取り外すことなく回収可能です

回収できないもの

肌着類	×	着物	×
下着類	×	ユニフォーム	×
靴下	×	学生服	×
水着	×	帽子	×
布団	×	ベルト	×
シーツ	×	合成皮革	×
マット	×	タオル	×
革製品	×	ダウン	×
体操着・ジャージ	×	フリース	×
着物	×	ニット	×

※濡れている衣料品は回収できません

左記に加え、選別作業を行う上で以下が追加となった。

回収できるもの：

- パジャマ
- ズボン

回収できないもの

- ウィンドブレーカー

左：各市町村へ配布した徳島県における廃棄衣類実態調査アンケート

右：2月26日(月)に開催した行政職員向けオンライン勉強会様子（年度末での開催した関係で当日参加自治体は3市町村にとどまった）

令和5年12月11日

徳島県内各自治体
廃棄物担当課 御中

株式会社 BIG EYE COMPANY
(上勝町ゼロ・ウェイストセンター運営主体)
担当：大塚桃奈

徳島県における廃棄衣類実態調査（依頼）

現在、上勝町ゼロ・ウェイストセンターでは、環境省による『令和5年度使用済み衣類回収スキームの構築に向けたモデル実証事業』の採択を受けて、今年度より徳島県内における廃棄衣類の削減と循環を目指した「KURU KURU Fashion Project」に取り組んでおります。本プロジェクトでは、上勝町ゼロ・ウェイストセンターを中心に、徳島県内2拠点で服の広範囲回収を10月17日(火)～11月30日(木)まで行い、回収した服は組成分析をした上で、パートナー企業の協力によりリユース・リメイク・リサイクルの流れで再生します。

この度、事業の一環として使用済み衣類の回収や再生の展開に向けた課題等の解決のための基礎資料とするため、アンケート調査を実施することとしました。お忙しいところ恐縮ですが、回答への協力をお願い申し上げます。

記

1. 調査内容
徳島県内における使用済み衣類の回収・処分状況

2. 調査票の回収期限
令和5年12月19日(火)

3. 問い合わせ先・調査票の提出先
株式会社 BIG EYE COMPANY (上勝町ゼロ・ウェイストセンター運営主体)
担当：大塚
住所：771-4501 徳島県勝浦郡上勝町福原下日浦7-2
電話：070-2616-9012
メール：otsuka@why-kamikatsu.jp

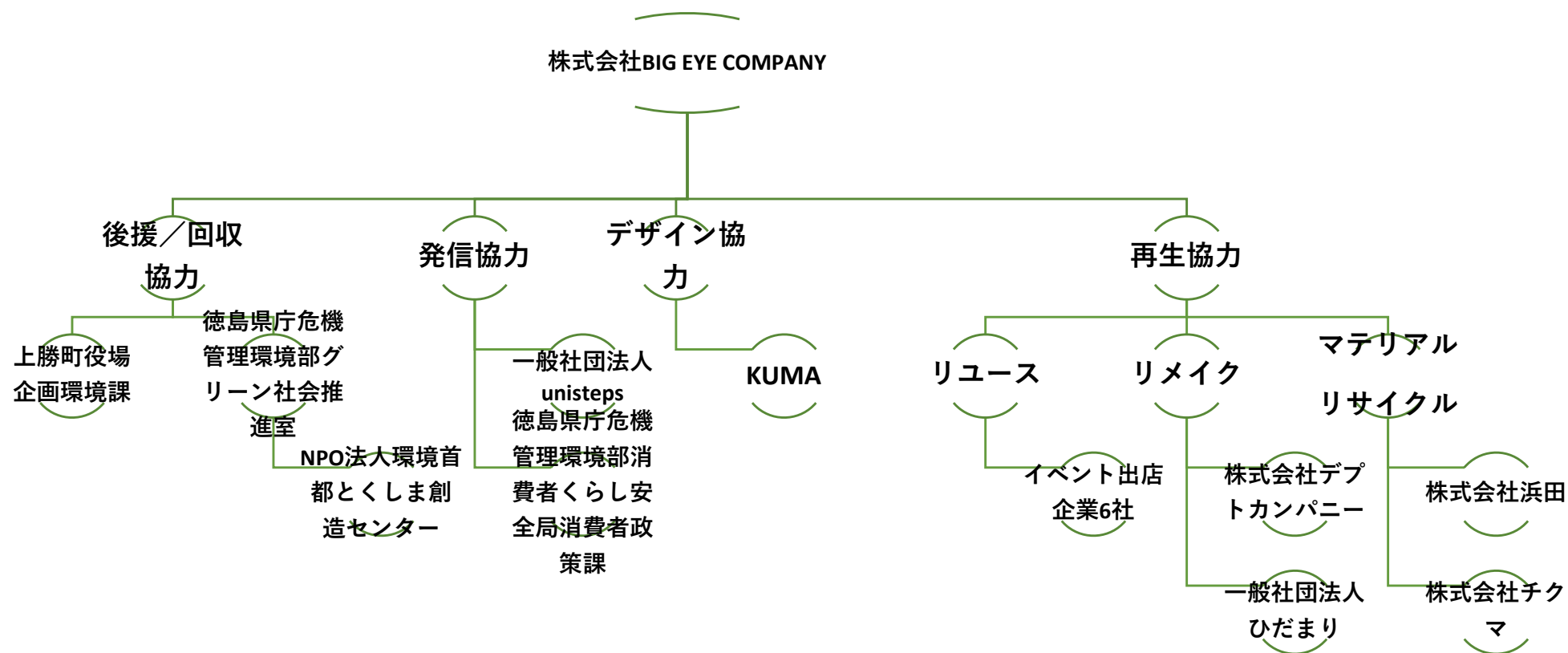
2024年2月26日
サステナブルファッション勉強会・環境省モデル実証事業報告会

KURU KURU Fashion Project
いまなぜサステナブルファッションなのか

一般社団法人unisteps共同代表
鎌田安里紗 | Kamada Arisa



4. 実施体制



※本事業における衣類の配送方法については、「専ら再生利用の目的となる一般廃棄物」として上勝町が認定し、廃棄物処理法上の「専ら（古繊維）」と判断しているため、既存の郵送サービスの使用ができるものと判断している。

5. 事業の成果

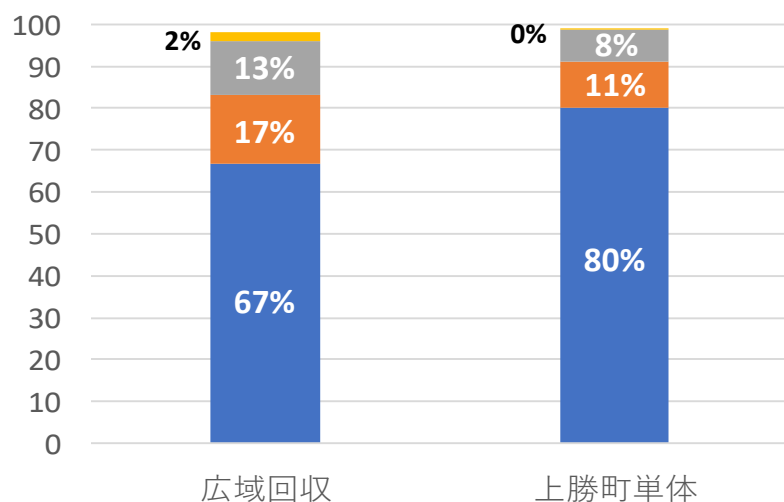
衣類回収量 合計1,906kg（回収期間：10月17日(火)～11月30日(木)）

・ 広域回収 1411.2kg（エコみらい1148.1kg、くるくるショップ263.1kg）

※くるくるショップへの郵送履歴や来場者のヒアリングから、徳島市、鳴門市、松茂町、藍住町、勝浦町からの持ち込みが確認できた。

・ 上勝町単体 494.8kg（上勝町住民がゴミステーションに持ち込んだ衣類）

素材別回収率



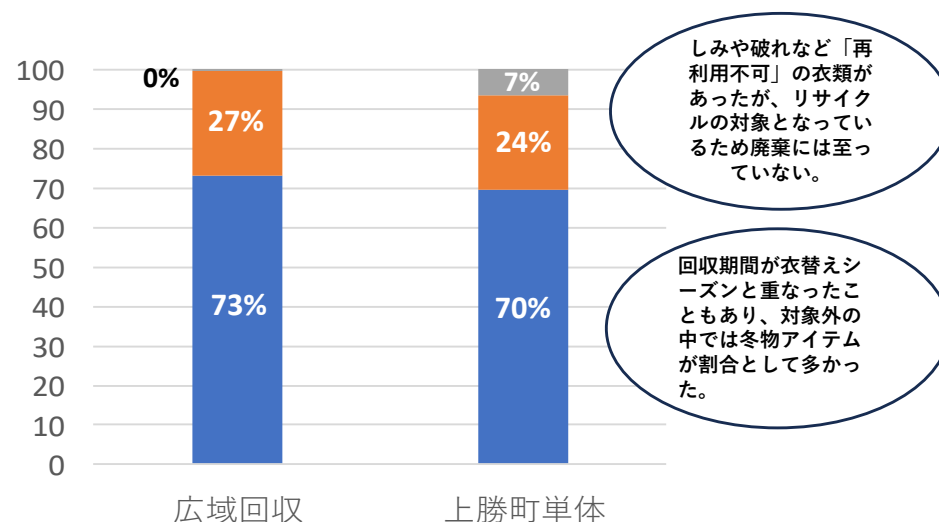
■ ウール ■ ポリエステル ■ コットン ■ 混毛

※四捨五入の関係で合計が100%と一致しない

その他に回収された単一素材の衣類は、以下の通り：

- ・ アクリル
- ・ レーヨン
- ・ ナイロン
- ・ リネン
- ・ テンセル
- ・ シルク
- ・ カシミア

対象アイテムの回収率



■ 再利用不可 ■ 回収対象外 ■ 回収対象

※四捨五入の関係で合計が100%と一致しない

回収対象外衣類

- ・ 布団
- ・ シーツ
- ・ マット
- ・ タオル
- ・ 肌着類
- ・ 下着類
- ・ 靴下
- ・ 水着
- ・ 体操着／ジャージ
- ・ フリース
- ・ 学生服／ユニフォーム
- ・ 着物
- ・ 革製品／合成皮革
- ・ 帽子／ベルト
- ・ ダウン／ウィンドブレーカー
- ・ ニット

※太字の衣類が特に混入が目立った

5. 事業の成果

事業期間内での再生量 合計1007.65kg

※上勝町単体で回収した衣類（上勝町住民がゴミステーションに持ち込んだ衣類）に関しては従来の再生ルートで処理を行っているため、数値には含めない

①リユース率 36%

- くるくるショップでのリユース：510.19kg ※イベント終了後1～2月に継続して
 - ・ 12月24日イベントのみでは210.8kg/378着の服がリユースされ、その後在庫分を継続してくるくるショップで並べている。
 - ・ アイテム別で人気があったのは、【1.冬物トップス、2.夏物トップス、3.アウタージャケット、4.子供服、5.ズボン】という結果になった。
- リメイクによるリユース：6.74kg
 - ・ 30枚のシャツを使用し10着分を制作し、2.94kgのハギレが発生した。
 - ・ 2月26日(月)からオンライン販売開始し、2月28日時点で5着完売している。

②リサイクル率 35%

- マテリアルリサイクル（再紡績）：23.6kg
 - ・ 装飾品のついていないコットン100%のトップスをリサイクル工場へ郵送（装飾品がついているものは回収NG。取り外した場合は引き渡しOKとされている。）
- マテリアルリサイクル（反毛）：473.46kg（508kgの郵送量に対して、ロス34.54kg）
 - ・ 対象衣類をゆうパックにてサイズ100×100箱を工場へ郵送した。

5. 事業の成果

備考

- 在庫366.07 kg分の衣類については、上勝町ゼロ・ウェイストセンターで保管しており、くるくるショップで無料リユースを継続する予定。在庫分がすべて持ち帰られた場合、リユース率62%となる見込み。
- 当初の予算計画で見積もりを行っていたサーマルリサイクルの処理対象の衣類は、最終的にはなかった。その理由としては、しみや破れ等がある再利用不可の衣類でもリサイクル対象として回収可能だったことに加え、リサイクル対象外のアイテムはリユースにまわすことができたためである。

回収・仕分けに対する考察

- マテリアルリサイクルとして回収可能な廃棄衣類量について、本事業の回収量を踏まえ、回収される73.1%の衣類はマテリアルリサイクルが可能となった。そのうち再紡績可能なコットン100%の衣類は16.5%を占めた。
- 回収された衣類の廃棄理由としてヒアリングを行った中で、特に「退職」「サイズアウト」「好みの変化」といった声が挙げられた。
- 回収期間中、回収拠点の保管スペースの関係でエコみらいへ合計4回の衣類回収を行った。回収拠点によっては、保管スペースに限りがあり、1か月に1度の回収では間に合わない可能性がある。本事業で回収した衣類は全て一度上勝町ゼロ・ウェイストセンターに集め、施設内のストックヤードとラボラトリースペース（一部衣類は別事業所の倉庫スペース）を使用して保管・仕分けを行った。今回の回収量に対しては、90平米ほどの屋根付きのスペースがあれば十分に足りる。
- 今回の実証事業では、各拠点につき1つの回収ボックスを使用した。資源先に応じて予め複数個の回収ボックスを用意すると、仕分けや配送の作業がスムーズである。特にタグ（素材）を確認する作業を省略できるとよい。例えば本事業の場合、①コットン100%のTシャツ（再紡績用）、②リユース用衣類（リサイクル対象範囲で回収）、③しみや破れなどのある衣類と分かれていれば、仕分けの手間を省くことが可能である。

5. 事業の成果

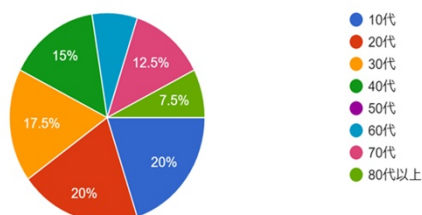
リユースイベントの参加者アンケート

【アンケート結果】

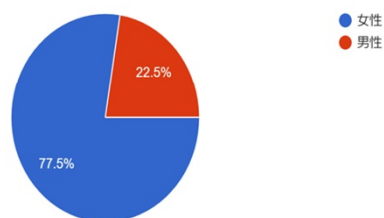
来場者数 約100名

- ・ トーク参加者 42名
- ・ ワークショップ参加者 各16名×2回開催
- ・ 1泊2日ツアー参加者13名

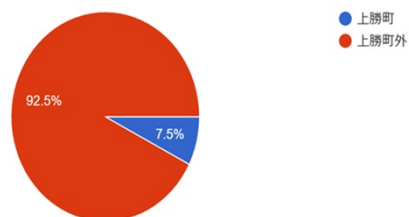
年齢
40 件の回答



性別
40 件の回答



お住まい
40 件の回答



イベントに対するコメント

- 良い商品がたくさん出ている
- 面白いのでまた行って欲しい
- 素敵なイベントだと思います！こういう取り組みが全国的に広がっていったらいいなと思いました。
- 体験やデータを通して楽しい、かつ考えさせられる良い機会となりました！ありがとうございました ♀
- 面白かった
- 1日じゃもったいないですね。
- ありがとう
- また開催してほしい。子供服はすぐだめになるので
- 色々あって楽しかった
- 環境に配慮していてかつハイセンスなイベントを開催していただいて有難う御座います
- 素敵なクリスマスになりました！
- ファッション業界の問題についてのパネルなども分かりやすく、楽しみながら古着について考えることができました。ディスプレイなども凄くオシャレでこのようなイベントを定期的に、色んな地域で当たり前に開催することができたらいいなと思いました

トーク・分別体験・ツアーに対するコメント

- 本来なら捨てるものを再利用し、物作りするのが楽しかった。これからも自然に配慮した取り組みを続けたい。
- 服の8割はゴミになっていると聞いてビックリした。買う量を減らそうという気になる。あと、綿素材などを選びたい。
- ワークショップとても勉強になり、色々な人に勧めたいと思いました。カードゲームもあることを知り驚きました。
- 服の分別ワークショップが選定側の気持ちになれて楽しかったです。
- よかった
- 子供が面白そうでした
- 上勝町にたくさん人が来ていて嬉しい
- ワークショップを通して服の分別について知ることができ、トークによって詳しく現状を知り、理解を深めることができて良かった
- まずは知ることがとても大事だと思いました。じぶんれべるでできることはたくさんあるなと。ただそれだけだと全然変わっていかないと思うので、動く必要があるなと思いました。
- 体験ができるワークショップが面白かった
- ファッションについて詳しく知ることができてよかった。またきたい。
- 衣服のリサイクル・リユースの大変さがわかりました。
- 上勝まで送迎があったおかげで遠方でのイベントに参加ができてよかった。
- 服のリサイクルについて学ぶことができ、分別の体験ができてよかった。

5. 事業の成果

リメイクシャツの販売

衣類回収 : 株式会社BIG EYE COMPANY

デザイン監修: 株式会社デプトカンパニー

縫製 : 一般社団法人ひだまり「くるくる工房」

デザイン: 1つのパターンをもとに、同じ素材を使用した3枚の使用済みシャツを活用し、1着のアイテムを制作。ジェンダーやサイズを気にせず着ることができるデザインに。

販売数 : 10着

販売価格: 15,230円/着

販売開始: 2月26日(月)～

販売方法: オンライン販売のみ ([ウェブサイト](#))

宣伝方法: リユースイベントでのサンプル展示・インスタグラム発信

販売実績: 2月29日(木)時点で5着完売 (徳島、神奈川、愛知、広島、香川のお客様にご購入いただきました)



5. 事業の成果

リユースイベントに対する考察

- HISツアーや徳島県環境講座と連動したことで県内外から多くの集客が見込めた。過疎地においてリユースイベントの開催が地域活性化に向けた発信や集客に繋がる結果となった。
- イベントでは、サステナブルファッションについて学ぶ宿泊型ツアーの開催やトークイベント、衣類の選別体験を提供した。参加者の多くの満足度が高かったのは、衣類の資源循環について古着を持ち帰って楽しむだけではなく、参加者同士の交流やワークショップを通して知的好奇心の刺激を受けたからだと考えられる。
- 今後、上勝町ゼロ・ウェイストセンターとしては、衣類回収を継続する上で、回収した衣類の選別作業を一つの研修体験プログラムとして学校や企業に提供していきたい。実際に手放される衣類のその先に触れる機会をつくることで、廃棄衣類の課題解決に向けた発信を行うと同時に、ファッションの社会課題を自分事として捉える人材が創出されると期待する。

リメイクシャツに対する考察

- リメイク商品の販売については、古着の仕入れ価格が0円の場合には古物商許可証が不要であるため、デザイン・制作の協力が得ることができれば、使用済み衣類に付加価値を生み出すことが比較的容易である。
- リメイクアイテムを量産していくうえでは、同じアイテムの一定量の回収が必要となる。シャツを使用したのは、回収しやすくアイテムのばらつきが生まれにくいためである。結果的に、ファストファッションのシャツとリタイア後に持ち込まれたと考えられるビジネス用シャツの割合が多く占められた。学校の制服や企業のスーツで着用されているため、今後も活用しやすいアイテムとなった。今回は回収後に制作するアイテムを決定したが、予めデザインを決めたうえで回収を呼び掛けるとスムーズ。回収するアイテムは、リサイクルが困難な素材が活用できるとよりよい。
- 販売プラットフォームとしては、上勝町ゼロ・ウェイストセンターの立地からオンライン販売を選択した。ただし、郵送料と手数料が発生してしまう結果となった。

5. 事業の成果

使用済み衣類の各処理方法における環境負荷と処理コストの検証

処理方法	再生品	対象衣類	環境負荷（1kgあたりの二酸化炭素排出量）	コスト（1kgあたりの処理費用）
焼却	なし	リユース対象の衣類を焼却した場合	+ 7.54kg （環境省「3R原単位の算出方法」参照）	－61円 （上勝町のレート）
		再紡績対象の衣類を焼却した場合	+ 4.464kg （環境省「3R原単位の算出方法」参照）	
		反毛対象の衣類を焼却した場合	+ 5.46kg （2022年4月～2023年3月までの株式会社エヌ・シー・エスの実績値をもとに株式会社チクマで試算）	
リユース・リメイク	中古衣類	劣化・汚れがない衣類	+ 0.016kg （環境省「3R原単位の算出方法」参照）	0円（選別料別）
マテリアルリサイクル	再紡績	綿100%	+ 0.016kg （環境省「3R原単位の算出方法」参照）	－1900～2200円 （選別・送料別）
	反毛	綿比率の高い対象衣類	+ 0.33kg （数値は2022年4月～2023年3月までの株式会社エヌ・シー・エスの実績値をもとに株式会社チクマで試算）	－307円の郵送料のみ発生（選別料別）

※いずれの処理方法には、衣類の輸送に係る環境負荷が含まれる
 ※焼却については、各対象衣類の新規材製造に係る環境負荷が含まれる

5. 事業の成果

検証に対する考察

- 焼却処理よりもリユース・マテリアルリサイクルを行うことは、再紡績のリサイクルを除いて環境負荷の削減につながることで数値の比較により検証された。しかし、処理コストについて再生方法によっては自治体の負担が発生する。
- リユースについては、環境負荷とコストともに削減につながった（回収・分別の作業費用や対象外衣類が回収された際の処理費用は含まれていない）。本事業で取り組んだリメイクのように、無料回収を行った古着を再製品化することで利益を創出することが可能となり、活動費（回収や分別の作業費）の確保にもつながると考えられる。
- 再紡績におけるマテリアルリサイクルについては、環境負荷の具体的な数値の入手が困難であったが、綿花の新規原材料調達における負荷が削減できると考えられる。一方、処理コストが大幅に増加することが分かった。しかし、製品化を行い販売を通じて利益の創出を図ることは可能である。
- 反毛におけるマテリアルリサイクルについては、焼却処理に比べて、環境負荷の削減につながっている。一方、処理コストとしては回収量に応じて郵送料が増加するため、自治体にとっては導入に繋がりにくい結果となった。回収頻度を少なくし、生産者責任として生産・販売を行うアパレル企業などと連携することで自治体の処理コストの負担を減らす施策が取れたらよいと考える（今回協業を行った株式会社チクマでは、イオンモールと連携をして店舗改修などをすでに実施している）。

→上記を踏まえると、使用済み衣類の回収を拡大する上で、自治体にとって資源価値が付き、再生時に環境負荷が低い衣類（リユース可能・製品化可能）から回収をスタートするのが良いと考える。現時点で焼却処分を行っている自治体で資源回収を導入することで、廃棄量の削減と処理コストの削減に繋がる。しかし、衣類全般を対象に資源回収の取り組みを行うには、処理コストの負担が高くなる傾向がある。自治体の処理負担軽減を行う施策については、検討の余地がある。

5. 事業の成果

徳島県の使用済み衣類の資源回収の実態に関する自治体アンケート結果（一部項目を省略して掲載）

対象：徳島県内24市町村

アンケート回収期間：2023年12月11日～12月19日

未回答自治体：8市町村

アンケートまとめ

回答率 66%

回答済み自治体のうち...

・衣類資源回収あり 12

・衣類資源回収なし 4

未回答自治体のうち...

・衣類資源回収あり 2

・衣類資源回収なし 6

※弊社調べ

→衣類資源回収なし自治体は県内で10市町村ある

自治体（未回答）	人口(2023年12月時点)	資源回収の有無	回収拠点数	回収頻度	廃棄量	処理コスト(kg/円)	処理業者
海陽町住民環境課	8,358人(2020)	×					
勝浦町住民課	4,694人	×					
阿南市環境保全課	68,964人	×					
北島町まちみらい課	23,675人	×					
美波町住民生活課	5,917人	×					
牟岐町住民福祉課	3,553人(2024.2)	×					
吉野川市環境企画課	38,722人	○					
松茂町産業環境課	14,595人	○					

アンケートまとめ

回答率 66%

回答済み自治体のうち...

- 衣類資源回収あり 12
- 衣類資源回収なし 4

未回答自治体のうち...

- 衣類資源回収あり 2
- 衣類資源回収なし 6

※弊社調べ

→衣類資源回収なし自治体は県内で10市町村ある

自治体（回答済み）	人口(2023年12月時点)	資源回収の有無	回収拠点数	回収頻度	廃棄量	処理コスト(kg/円)	処理業者	回収を行わない理由
鳴門市環境共生部 クリーンセンター廃棄物 対策課	54,093人	×	約 2,900	週2回	不明	不明	直営（鳴門市）	衣類はすでに市民等が集団回収で回収している品目であり、回収量に応じて奨学金も交付していることから市として資源回収を実施することが適切ではないため。
那賀町環境課	7,297人	×	687	週2回	118,000	不明	那賀町	資源化、回収コストや保管場所の設置等の懸念に加え、収集品目の新設により、収集作業員や収集車両の不足が懸念される。
美馬市環境下水道課	26,483人(2023.9)	×	約 3400	週2回	未調査	未調査	美馬環境整備組合	今後の中間処理施設の更改に伴い、現行の分別・回収方法を見直すことも考えられる。時期は未定。
つるぎ町住宅環境課	7,650人	×	不明	地区によって異なる	不明	不明	一部事務組合	無回答

資源回収実施自治体	人口(2023年12月時点)	資源回収の有無	回収拠点数	回収頻度	対象衣類	回収量(kg/年)	資源先	処理コスト(kg/円)	処理業者
神山町住民課	4,933人	○	約130	月に1度	衣類、毛布、タオル	約20,000	海外中古衣料、工業用ウエス、車の内装材	0円	ナルト紙料(株)で回収した後(有)田代商店・(有)豊嶋商店へ
上板町環境保全課	11,304人	○	1	年約190日	人が着ていたもの	14,320	工業用ウエス	+1円	マルワ環境(株)
阿波市環境衛生課	34,873人	○	6	旧町(4町)につき月1回	衣類全般	約35,000	海外中古衣料、工業用ウエス、車の内装材	不明(恐らく0円)	ナルト紙料(株)
石井町環境保全課	24,914人	○	回答無し	3か月に1回	不明	57,000	不明	+6円	株式会社エムアンドエフ
東みよし町環境課	13,405人	○	439	月2回	シャツ・Tシャツ・ズボン・下着類・オーバーコート・皮革製品・タオル・毛布	10,000	海外中古衣料(2024年12月号広報から)	不明	みよし広域連合リサイクルプラザ
三好市環境課	23,265人	○	回答無し	月1回/収集日	衣類の他、タオル・シャツ類	30,000	海外中古衣料(2024年12月号広報から)	不明	みよし広域連合リサイクルプラザ
藍住町生活環境課	35,408人	○	1	指定日なし	服・ズボン・着物・シャツ・靴下他	22,000	主に工業用ウエス、チップ等に再生	+1円	(株)フジゲン
板野町環境生活課	12,960人	○	約400	月3回の持込及び週2回の収集	汚れが酷い衣類及び下着	23,720	リユース、反毛、ウエス、固形燃料	0円	(有)ナルト紙料センター
徳島市環境保全課	247,097人	○	2	開設時間内	別紙リストを送付	64,507	工業用ウエス	不明(恐らく+1円)	マルワ環境株式会社(令和5年度事業者、城東町のみ)
佐那河内村産業環境課	2,146人	○	1	週1回	下着以外	13,170	リユース、反毛、ウエス、固形燃料	0円	(有)ナルト紙料センター
小松島市市民生活課	35,414人	○	3	毎日	服、帽子(一部回収できないものを除く)	7,880	工場用ウエス	+1円	(株)フジゲン
上勝町企画環境課	1,401人	○	1	毎日			リユース、反毛、ウエス、固形燃料	+1円	

5. 事業の成果

アンケートに対する考察

- 現在、県内24市町村中10市町村は使用済み衣類の資源回収を実施しておらず、排出量並びに処理コストを把握できていない。各市町村の人口に応じた回収量実績から、焼却にまわっている使用済み衣類は約25,000kgに上ると推定できる。
- 既に衣類回収を行っている自治体では、処理コストが1kgあたり0円～+1円となっており、コスト負担がない。
- 自治体独自で処理を行っている東みよし町と三好市を除き、県内では主に5社の古紙回収業者が衣類の資源回収を行っている。回収後の資源化については、各社からさらに別の繊維リサイクル業者へ引き渡しが行われる流れとなっている。ナルト紙料株式会社によれば、回収後の衣類は香川県の（有）田代商店と（有）豊嶋商店へ運搬されていると確認がとれた。また、資源先としては、主に国内外の中古衣料（リユース）、工業ウエス、固形燃料としてリサイクルされているが、トレーサビリティについては不明瞭であることが分かった。
- 既に資源回収を行っている自治体の回収拠点数と回収頻度を踏まえると、収集を行っている自治体の方が回収量は多い結果となっている（例：人口約5000人の神山町に比べ、人口約35000人の小松島市の回収量は少ない）。
- アンケートに加えて徳島県危機管理環境部グリーン社会推進室へのヒアリングから、徳島市・小松島市・美波町・吉野川市は資源循環の取り組みに積極的に取り組んでいることが分かった。

6. 今後の検討課題

- 廃棄衣類の削減や資源循環の施策については、現状として各自治体の取り組みに委ねられており、資源循環に取り組んでもインセンティブが用意されていない。特に、自治体間連携で取り組む支援制度がなく、小規模自治体においては限られたリソースで廃棄物政策を行う上では負担が大きい。
- 環境負荷削減に対する対策には、自治体とリサイクル業者の処理負担が大きい。廃棄衣類の素材や仕様が多様化しており、市販されている素材がリサイクルが難しく、使用済み衣類の資源回収時の価値が見出しにくい状況がある。自治体として取り組みを行っても経済的メリットが生まれない。回収・処理コストがかかってしまうため有料回収を行った場合には、住民からの回収協力も低下する可能性が高い。今後の可能性として、企業連携の回収を通じた自治体の負担軽減の対策など（国内の生産・販売量に応じた処理コスト負担のインセンティブを与える等、回収ルートの構築と同時に企業責任も問うべきではないか）検討はできないか。
- 徳島県内では衣類が資源回収された後、衣類のリサイクル業者が存在しないため（弊社調べ）、ほとんどの場合回収された後に高松の繊維リサイクル業者へ輸送されていると考えられる。リユースを県内において促進するのであれば、県内にも作業拠点があれば、回収や二次流通が行いやすくなるのではないか。
- マテリアルリサイクルのなかには、回収ができない衣類も含まれており、廃棄衣類のすべてが資源循環の回収対象になるわけではない。リサイクルできない衣類に関しては、生産段階で資源回収ができるデザイン設計を導入していただきたい。

7. 事業終了後の継続方針

今後、徳島県全域での資源回収を目指し、まずは上勝町の近隣自治体と連携してスモールスケールで広域回収の取り組みをパイロット事業として実施することができないか検討したい。今回自治体アンケート調査の回答結果を踏まえ、小松島市が県内の自治体の中で唯一サステナブルファッションの普及啓発を行っていたことから、使用済み衣類の回収に意欲的に取り組みを行っていることが伺えた。一方、勝浦町では衣類の資源回収を行っておらず、焼却処理を続けている現状があり、本事業の回収期間中に勝浦町からの持ち込みも多数見受けることができた。まずは、勝浦川流域の3市町村（上勝町・勝浦町・小松島市）での回収協力の呼びかけを行っていくことは実現可能性が高いと考えられる。既に小松島市では3拠点、上勝町では1拠点で毎日衣類回収を行っている、勝浦町にも回収拠点を1カ所設置し、対象衣類を統一して回収を行うことができないか検討していきたい。

8. 横展開のポイント

★使用済み衣類が回収した自治体から別自治体へ持ち込まれる場合には、予め自治体間での「古繊維」に対する認識の統一が必要。自治体によって認識にばらつきがあるため一つ一つの調整にハードルが高く感じられる。広域回収に取り組むことについて、環境省としてモデル提示することは各自治体にとって説得力につながるのではないか。

★各拠点で回収・循環を行う場合には、既存の民間処理業者（古紙回収業者や繊維リサイクル業者）を巻きこみ回収スキームを構築するとよい。既に存在する保管スペースや仕分け技術を生かすことができれば、0から構築しなくて済む。